

## 須賀川市議会だより「8万」の概要

### 1 これまでの経過について

- 平成13年5月 各会派代表者会議において議会報作成の意見
- 6月14日 議会だより検討委員会（副議長ほか各会派及び無会派から6名）  
市民の議会に対する理解を深めてもらう上で必要な手段  
発行検討研究会を立ち上げ、発行を前提とした調査を実施
- 7月30日 第1回議会だより発行検討研究会  
委員構成・・・各会派及び無会派から1名以上の有志。（7名）  
他市の議会だよりの内容及び発行の仕方の調査研究  
各委員からの意見聴取  
2色刷り、年4回発行とする。
- 8月24日 第2回議会だより発行検討研究会  
発行の基本的な考え方として、“事前告知型”の採用を検討  
×時間的な制約（当局の情報提供についての考え方）  
×市民にわかりやすく説明することも大切  
×号外形式で告知すれば良いのではないか  
予算規模については、年額3～400万円程度とする。
- 9月7日 第3回議会だより発行検討研究会  
中間報告取りまとめ・・・終了後、議長に提出
- 9月19日 第4回議会だより発行検討研究会
- 10月15日 第5回議会だより発行検討研究会
- 10月29日 第6回議会だより発行検討研究会  
申し合わせ事項の内容について検討・・・内容決定  
最終答申の内容について検討・・・内容決定
- 11月5日 議長に対し、最終答申を提出

- 
- 平成14年4月11日 第1回議会だより編集委員会  
委員構成・・・発行検討研究会のメンバー（議長指名）  
編集方針の確認・・・“事前告知型”  
配布方法の決定・・・市広報と同様  
発刊日の決定・・・7月1日（全協での確認後）  
各号の基本となる色の選定

( 6月…青、 9月…茶、 12月…赤、 3月…緑 )

- 5月 8日 第2回議会だより編集委員会  
須賀川市議会だより発行に関する申し合せ事項案文作成  
仕様書の作成…企画提案説明会(アイディアコンペ)実施  
企画提案説明会について
- 5月20日 企画提案説明会開催  
第3回議会だより編集委員会  
メインタイトルの決定「6万7千」  
見積依頼時に指示すべき事項について…文字サイズ等  
編集内容について(具体的な掲載内容について)
- 5月27日 議員全員協議会で、申し合わせ事項承認
- 6月 4日 第4回議会だより編集委員会  
発行までのタイムスケジュール決定  
編集主幹の選任及び主幹会議について  
掲載内容、記事の割り付け決定…特集ページの採用  
各編集委員担当割決定
- ( 10日・13日・19日 主幹会議…正・副委員長、主幹(2名) )
- 21日 第5回議会だより編集委員会  
最終校正
- 平成14年7月1日 須賀川市議会だより「6万7千」第1号発行  
以降、これまで24号発行(H20.3.1)

---

平成20年2月19日 議会改革調査特別委員会で「議会だより編集委員会」の  
位置づけについて協議し、「常任委員会とすべき」とする調  
査報告書を議長に提出。

平成20年3月24日 これまで議会だよりを発行してきた「議会だより編集委  
員会」が、常任委員会として位置づけられ、「議会広報委員  
会」が設置された。

## 2 議会広報委員会の構成

8名の委員で構成し、任期は2年。

## 3 発行回数及び部数

発行回数：原則として毎年度4回発行とする。

発行部数：25,000部

## 4 編集方法及び編集日程

### 第1回委員会

編集方針決定 特集記事内容、表紙イメージ、議会からの告知内容等  
紙面担当割(者)決定

スケジュール決定

(例)第24号(平成20年3月1日発行)

事前打合せ	1月17日	正副委員長、各案の調整
24-1 編集会議	1月24日	各紙面構成、担当・日程決定
	2月5日	原稿入稿
24-2 編集会議	2月12日	1稿校正～2稿作成～入稿
24-3 編集会議	2月18日	2稿校正～3稿作成～入稿
24-4 編集会議	2月21日	3稿校正～4稿作成～入稿
24-5 編集会議	2月25日	最終稿確認

## 5 議会だよりの特徴

・事前告知型 (一般質問の問答集ではない。)

議会開催月の初日の発行となるため、当該議会でどんな議案が議論されるのかを知らせることができる。

議会日程を詳しく、できるだけわかりやすく紹介することで、議会活動に対する理解が高まる。

将来的な可能性として、例えば当局提案の議案に関する現地の案内図や計画等を掲載し、何をしようとしているのかをあらかじめ紹介することで、議論の場である議会に対する関心をより深いものにする。

一般質問については、答弁等に微妙なニュアンスが多くあり、これを的確に限られた文字数で表すのが難しいと考える。また、相当のページ数が必要になるとともに、一般質問を行う議員のみの掲載となる。

地元紙(2紙)が一般質問を記事として掲載している。発行部数は、マメタイムス約8千部、阿武隈時報約9千部で、須賀川市の世帯数(2万5千世帯)の約7割が購読している。

さらに、市ホームページに本会議の中継(ライブ・録画)と会議録検索システム(本会議、各委員会)を導入し、市民に公開している。

・市議の手作り

編集委員(市議)が自ら原稿を執筆(依頼)するとともに、写真撮影、編集作業なども行う。

事務局は、印刷の契約、契約業者との調整、配布先への送付、会議の設定、編集会議での校正作業などを編集委員とともにやっている。

・特集記事及び議会から

日頃なかなか伝わることのない、決定の経緯や本会議や委員会での議論について掲載し、結果のみではなく“なぜそうなったのか”を知らせる。

議員が提出した議案や意見書についての解説を加えることで、より深く認識してもらおう。

議会の視点から読者である市民への情報をわかりやすい表現で発信することにより議会活動に対する関心を高めてもらう。

・見やすい、読みやすい、わかりやすい紙面づくり

字の大きさ、一行の文字数、色の使い方、字体の変化

聞きなれない、あまり目にしない、いわゆる行政用語などをできる限りわかりやすい表現に変える。置き換えが困難なものについては、ページ内に注釈を加えている。

市議会教室や議会用語あれこれなどで、議会のしくみや用語をわかりやすく解説する。

写真やイラストの活用や、季節によってベースになる色を変えるなど視覚に訴える工夫をしている。